



▲府中郷土の森の梅とメジロ 撮影：岩本サポーター

開館に寄せて

府中市長
高野 律 雄



このたび、府中市環境保全活動センターが、開館できましたことは、誠に喜ばしくこれも偏に関係各位のご尽力のたまものと心から感謝申し上げます。

ご案内のとおり本活動センターは、府中市環境基本計画に基づき設置された府中市環境推進協議会から、平成20年3月に「環境保全活動の支援センターのあり方について」提言をいただき端緒が開かれました。

また、平成23年3月に策定された「府中市地球温暖化対策地域推進計画」の中でも、個別施策等各般にわたり活動センターの役割が期待され、開設が待たれている状況にございました。

こうした中、各種団体、事業者そして市民の皆様のご協力のもとに、環境保全に関する学習の機会、交流及び活動の場として、本活動センターが府中駅北第2庁舎内に設置できましたことを、改めまして深くお礼申し上げます。

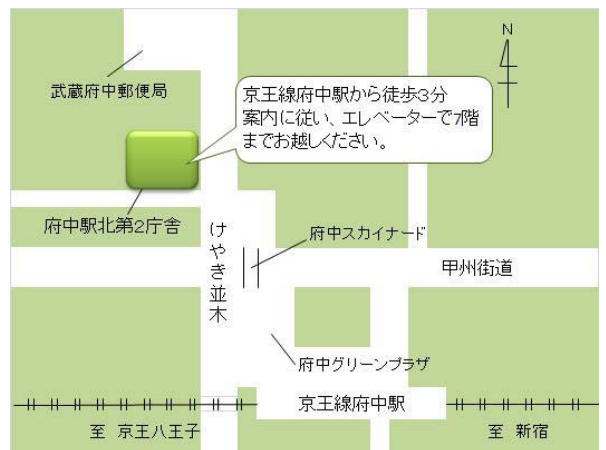
結びに、府中市環境保全活動センターが、本市の環境資源や地域の特性を生かしながら、環境保全活動を促進するための拠点及び情報発信源となり、市民の皆様を始め事業者、団体等のご期待にお応えできる施設となりますことを心から念願し、私のご挨拶といたします。

環境保全活動センターのご案内

市では、府中市環境基本計画及び環境行動指針に基づき、環境保全活動を実践していくための拠点として、また市民等が行う環境保全活動を支援するため、「府中市環境保全活動センター」を平成23年12月1日に開設いたしました。

環境保全に関するご相談・お問い合わせ等がございましたら、お気軽にお立ち寄りください。

- 所在地 府中市寿町1丁目5番地
府中駅北第2庁舎7階
- 電話番号 042-335-4410
- 利用時間 午前9時から午後5時
- 休業日 土曜日、日曜日及び祝日
年末年始
(12月29日から1月3日)



活動センターの機能

- 1 交流及び諸活動の促進及び援助に関すること。
 - (1) 環境情報の発信
 - (2) 各種環境イベントの企画・立案・実施
 - (3) 広報活動
 - (4) 環境保全活動機会の提供
- 2 講演、講座及び研修に関すること。
 - (1) 環境学習
 - (2) 環境観察
- 3 図書及び資料の収集及び利用に関すること。
 - (1) 環境情報の収集
 - (2) 環境情報の利用
- 4 相談に関すること。
 - (1) エコ商品購入の補助制度の紹介と購入アドバイス
 - (2) 環境問題に関する相談
 - (3) 自然環境に関する相談
 - (4) 事業者からの相談
- 5 調査及び研究に関すること。
 - (1) 環境保全活動の調査及び公表
 - (2) 環境情報の提供
- 6 センターの管理等に関すること。
 - (1) 活動の協力依頼及び調整
 - (2) センターの広報
- 7 その他環境保全活動に関すること。

サポーター一覧

個人登録者 49名（平成24年3月13日現在）

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ・熊井滋有 | ・吉岡史乃 | ・勝谷寛子 |
| ・竹内章 | ・高橋和夫 | ・前川浩子 |
| ・竹田勇 | ・内藤林三 | ・新山孝雄 |
| ・小西信生 | ・伊東準一 | ・城谷一民 |
| ・多田眞 | ・石川伊智郎 | ・榎ヶ峠俊一 |
| ・大崎清見 | ・新井孝次朗 | ・小泉共司 |
| ・伊藤順理子 | ・室英治 | ・葛西利武 |
| ・羽尻元彦 | ・塚原仁 | ・荒木茂 |
| ・舘浩道 | ・岩本祥子 | ・梅沢みどり |
| ・住崎岩衛 | ・比留間吉郎 | ・進藤礼治郎 |
| ・小池昌子 | ・増山弘子 | ほか15名 |
| ・丸茂泰彦 | ・山田義夫 | |

※氏名掲載了承者のみ掲載（申請順・敬称略）

団体登録 7 団体

- ・NPO法人 府中かんきょう市民の会
- ・かんきょう塾ネット
- ・浅間山自然保護会
- ・クリーンサプライ株式会社
- ・東芝ソリューション株式会社
- ・東京外国語大学総合ボランティアサークル Peek A Boo
- ・多摩南生活クラブ生協 まち府中 ごみ減らし隊

サポーター募集!!

環境保全活動センター事業の実施にあたっては、サポーター（環境保全活動を行う登録者）にご協力をお願いしております。サポーターについては、随時募集しております。

・申込み方法

申込書に必要事項を記入のうえ、持参、郵送、またはメールでお申し込みください。申込書（個人用・団体用があります）は、7階環境保全活動センターで用意しているほか、市のホームページからダウンロードできます。



▲環境保全活動センター

環境講演会「放射能について」開催しました。

環境啓発イベント「あきかん～第3回府中エコ博～」の中で、環境講演会「放射能について」を、平成23年11月3日（祝）にルミエール府中で開催いたしました。講師に、東京農工大学大学院農学研究員准教授で、農学部放射線研究室長の三浦豊氏を迎え、放射能の基礎知識や健康への影響について講演していただきました。講演を聴いた参加者からは、「大変参考になった。」と好評でした。

講演の要旨をご紹介します。

放射能、放射線とは何か

放射線は宇宙の誕生以来存在するものであり、最近になって外部から急に出てきたものではありません。

我々の体内にも元々放射線はあり、宇宙放射線や自然放射線が、「人類の進化の一つの駆動力であったのではないか。」と主張している研究者もいます。

放射線の言葉の定義について、辞書では「放射線とは放射性同位元素の崩壊に伴って放出される粒子線または電磁波」であり、法律上は一定以上のエネルギーを有した粒子線、電磁波で、電離作用を有するものを指します。

主な放射線の種類としては、電磁放射線、粒子放射線など様々です。皆さまご存知のとおり、x線は医療用のレントゲン等で使用されます。

放射性同位元素とは、放射線を放出する同位体のことです。同位体とは陽子数が同じで中性子数が異なる元素です。放射性同位元素の特徴は、時間とともに放射線を出し減少します。放射能が半分になる期間を半減期といい、エネルギーが大きいものほど短い半減期を有します。原発事故で放出されたヨウ素131は現在では減衰し、ほぼ存在しないと考えられます。

(※3ページ目に続きます。)

「放射線漏れ」は管理されている発生源から外部に放射線が漏出している状態で、「放射能漏れ」は放射線を発生する物質が外部に漏出している状態です。例えば、電灯が放射線を出すラジオアイソトープ（放射性同位元素）であるとすると、電灯から出る光線が放射線、光線を出す能力及び性質のことを放射能といいます。放射線漏れは、漏出している場所をふさぐことで防げますが、放射能漏れは、放射線を出している物質を取り除かないと防ぐことができません。

最近では大分減ってきましたが、マスコミでも言葉の使い方を間違えている様子を見かけます。現在の日本は、原発の事故により放射性同位元素が漏出しているので、放射能漏れという状態と言え、その量が多く健康に被害を起す可能性がある場合は、除染が必要な状態となります。

放射線に関する単位

放射線に関する単位というものは多くあり、簡単に説明すると、放射線・放射能の強さを表すのがベクレル(Bq)、物質への吸収をグレイ(Gy)、人への影響を表すものをシーベルト(Sv)とといいます。

放射線の人体への影響

人類は放射線の発見以来、その有効利用と共に放射線がどのような影響を人体に及ぼすのか、多くの「事故」と「戦争」の経験から学んできました。ただし、現在日本で起きているような低線量被曝の影響については今も研究が進行中です。我々人類は発展していく過程で、ダイオキシンやアスベストなどの化学物質が健康被害を引き起こすことを経験していますが、これらよりも、放射線が与える影響の方が研究は進んでいます。しかし、未知の点が未だ多くあり、我々はこれまで経験したことのない事態の中にいます。従って、冷静な対応が必要であり、正確な知識を身につけることが重要です。

被曝は、内部被曝と外部被曝に大きく分かれます。内部被曝は、放射性物質で汚染した食物や水、大気を体内に取り込むことで体の中から被曝するもので、外部被曝は、外部の放射線源からの放射線を浴びるものです。影響はどちらも、浴びた線量で決まることがわかっています。外部被曝をどう防ぐかについては、防護の「遮へい」、「距離」、「時間」の3原則があります。遮へいは、遮へい材を使い遮ること。距離は近づかず、距離をとることで、放射線の強さは距離の逆二乗に比例し、距離が倍だと4分の1しか影響を受けません。時間は、被曝時間を短くすることで、外部被曝を防ぐことができます。

遮へいの話をしましたが、放射線の種類によって透過する能力が違います。例えばα線は、紙1枚で遮へいできます。しかし、γ線だとアルミは透過し、鉛板でないと止められません。人体の影響を考えた場合、α線は皮膚で止まりますがβ線はある程度入ります。γ線、x線は透過するため、内部器官にも影響を与え可能性があります。

放射線をどう測るか

放射線は人間の五感で検出することができません。そのため多くの測定方法が考案され、様々な原理に基づいた測定機器が開発されています。

測定機器には向き、不向きがあり、状況に応じて正しい機器を使い分ける必要があります。低線量の放射線を測定するには適さない機器もあり、適切な機器を使用しない場合には実際の値よりも高い値が得られることもあります。料理をする時に、小麦粉を100gとりたいのに体重計で100g測る人はいないわけです。

実際それに近いことが一時行われていました。「都内のここが危ない」などの記事が沢山週刊誌で出たと思います。そのような記事を掲載していた雑誌の中には、適切な機器を使用せず、かつ測定条件が書かれておらず、最終的に測定器が示した数字だけを記載して記事にしていたものがたくさんありました。これでは恐怖心をあおるだけで、全く正確な判断を下すことができません。測定機器には、正しいものを正しい方法で、正確に使用して欲しいということが、今日伝えたかったことの一つです。



リスクの考え方について

これまで放射線によるリスクは、社会が受け入れ可能なものであると考えられてきました。しかし、原発による事故以降、その状態は大きく変化しています。

正確な情報、正確な知識に基づいて、社会全体でリスク（放射線による健康被害が起きる可能性）とベネフィット（医療用の利用・原発による発電などの利点等）のバランスをもう一度考え直す時期に来ていると考えます。特に日本は、ゼロリスクを求めがちな社会です。ゼロリスクはありえないということを理解し、どこまでリスクを許容できるかを基に、関係者が情報を共有して社会的コンセンサスを形成することが一番大事だと思います。

我々は今後どうすればよいか

～おそれず あわてず あなどらず～

まず、放射線に関する正確な知識を身につけることが肝要です。また、汚染状況の正確な把握も早急に行わなくてはなりません。ただし、その際に得られた値に一喜一憂するのではなく、リスクを正当に評価する必要があります。そのための経済的なコスト負担についても議論をしなくてはなりません。また、100%の安全はあり得ないということを認識し、どこまでのリスクが許容できるのか、社会的なコンセンサスを形成する必要があります。そのためにも、正確な情報の提供と共有が必要であり、行政・科学者・マスコミ・市民がそれぞれの立場で適切な物差しをもって判断し、議論を行い、やれることをやっていくことが重要であると私は考えます。皆さん自身が考えると同時に、色々な人とともに考えていかなければならない、これが今まさに我々が置かれている状態なのです。

佐久穂町の町有林を整備 カーボンオフセット事業を実施

本市の家庭ゴミの焼却によって排出されるCO₂の一部を、姉妹都市である長野県佐久穂町の森林保護を行うことにより、排出量を相殺させるカーボンオフセット事業を始めました。

昨年7月26日に、佐久穂町との間で長野県の「森林の里親促進事業」による森林整備協定を結び、佐久穂町の上日向・中日向地区の町有林約19.8haを間伐し、森林整備いたしました。

24年度も八ヶ岳下・上日向・灰立地区の町有林約20haを間伐するとともに、森林間伐体験学習事業を行い地域交流や自然体験をしていただく予定です。



▲平成23年7月26日 カーボンオフセット 協定締結調印式後の森林間伐体験に参加していただいた子どもたち

多摩川清掃市民運動 奮って参加を

今年で39回目を数える多摩川清掃市民運動が、来る4月15日（日）午前9時から10時30分まで開催されます。

集合場所は、多摩川河川敷の9か所（旗による目印）で、軍手、ごみ袋、ごみばさみを用意してあります。多摩川をきれいにするため、ぜひご参加ください。なお、雨天の場合は翌週（22日）に順延します。

編集後記

『春は名のみ風の寒さや…』今年立春を過ぎても雪が降る等、例年以上の寒さのうえ節電対策により重ね着や厚手のカーテンに変えるなど、皆さまには寒さ対策に工夫をこらしたことと思います。

さて、待ち望んでいた環境保全活動センターが、昨年の暮れにオープンし活動もようやく緒に就いたところです。

この一環として、ここに「センターだより創刊号」をサポートの皆様にお届けするとともに、広く市民の皆様や事業所に配布し、本号が活動センターへのご理解とご協力に繋がることを願っております。

本活動センターのオープン、決してゴールではなく第一歩であることを十分認識し、サポートの皆様とともに、今後の環境保全活動を展開していく所存です。

ご意見をお待ちしております。

M. K

～運営委員から一言～

活動センターの事業及び運営について審議するために、運営委員会が設置されております。各運営委員をご紹介します。

（芝浦工業大学非常勤講師 室英治 委員長）

水と緑に恵まれ自然環境が豊かで、長い歴史のある府中市に環境保全活動センターが誕生しました。大学非常勤講師、ISO14001審査員をしています。より良い環境の町“府中”を作るために、微力ながら運営委員としてお手伝いをさせていただくことになりました。よろしくお願いたします。

（農業従事者 比留間吉郎 副委員長）

農業を通じた府中の環境を考えていきたい。

（和文化研究会倶々楽 代表 岩本祥子 委員）

2人の娘の母親です。福島原発の事故から、毎日親として、不安になる事が耳に入ってきて来ます。そんな時に、来館して気になる事を調べたり、詳しい人を探せる、そんな気軽なセンターになって貰える様、運営に携われれば、と思っています。よろしくお願いたします。

（環境カウンセラー 大崎清見 委員）

現在の世紀は環境の時代と言われています。市の環境対策は環境基本計画に示されています。私は市民として計画作りに参加し、一方、自然を軸に環境業務に従事しましたので、身近な環境から地球規模の環境も念頭に、皆様のご理解と活動への参加に、微力ながら最善を尽くします。

（府中かんきょう市民の会 理事長 竹内章 委員）

府中市環境保全活動センターの設置については、環境問題をテーマに活動している市民団体としては永年の夢でした。この度、活動センターの運営委員としてお手伝いさせていただく事になりました。市民や事業者に親しまれるようなセンター運営を心がけて行きたいと思ひます。

（かんきょう塾ネット 代表 塚原仁 委員）

昔の悪童仲間の誘いで「かんきょう塾講座」を受講し、初めて環境に接しました。それ以来「子供達にふるさと府中を如何に残していくか市民目線で皆さんと取組んでみたい」と考えるようになりました。この度活動センター運営委員をお請けし府中に環境保全活動の輪を広げて行きたいと思っています。

（森林インストラクター 内藤林三 委員）

私たち人間が汚してしまったものならば、私たちの手でぬぐわねば。日々暮らしている身の回りの状況をよりよくするために、その道は様々ですが、向う三軒両隣、若いも若きも皆で考え、できることからやってみましょう。私の視点は、自然界とそこに生きる生きものたちにあります。

（有限会社パルストック代表取締役 増山弘子 委員）

動植物、大気汚染どれを主体において環境を考えるかで見方も違ってきますが、私たち人間の生活が環境を大きく左右していることは確かです。府中の市民が環境の情報を得ることのできる環境保全活動センターのオープンに携われたことはとても喜ばしいことと思っています。

（浅間山自然保護会 会長 山田義夫 委員）

府中市環境保全活動センター開設に伴い、運営委員としてお手伝いすることになりました。環境保全活動は、幅広い分野の活動が求められています。浅学な私は、重い役割を担いました。皆様のご指導をいただきながら、少しでもお役に立つよう努力いたしますのでよろしくお願いたします。